

生徒主体 えびの盛り上げ

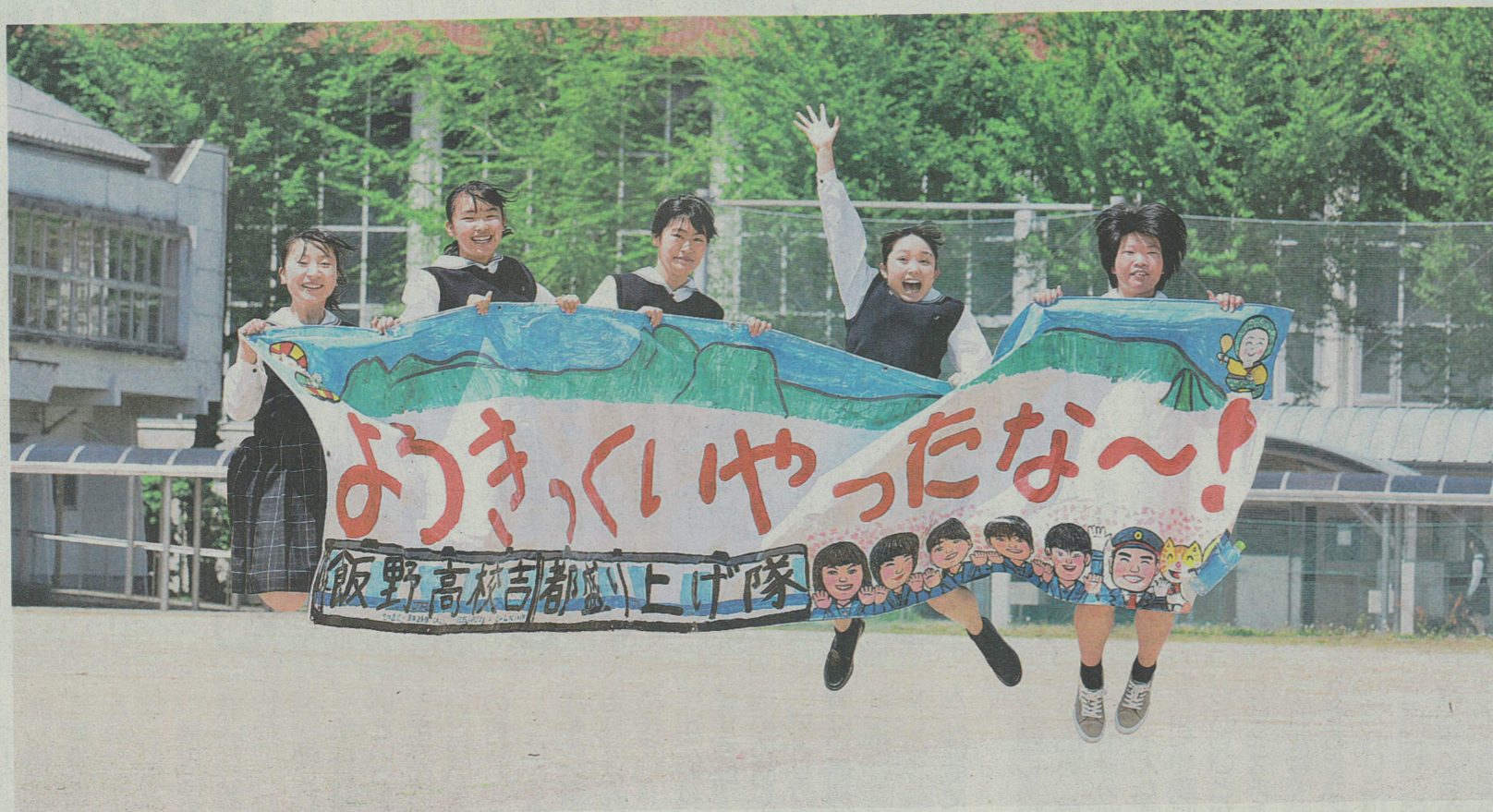
飯野・地域課題の解決

高校 いいね!

#拡散希望

JR吉都線や温泉街の活性化、地域医療の魅力発信。えびの市・飯野(間曾妙子校長、241人)は生徒が主体となって地域課題を探り、解決策の提案・実践に向けた活動を行っている。コミュニケーション能力や企画力向上につながり、特色ある教育活動は全国から注目を集める。

JR吉都線を応援する手作りの横断幕を手にポーズをとる生徒



全国卒や2年時だけの他校留学制度を活用し入学・留学した県外出身の生徒たち。今春は10人(手前2列)が加わった



イエメン支援活動のための準備をする生徒

今回の推薦人



卒業生の柘崎黎捺さん(26)「起業家を生徒に紹介するなど活動を支援しています。他校ではできない体験を積めるので、行動力のある生徒が多いです」

(撮影はいつでも4月、えびの市・飯野高で)



地域課題解決に向けた事業を下級生に紹介し、参加・協力を呼びかける生徒

縦1疋、横4疋の大きな横断幕に西諸弁で「ようきくいやったな〜!」の文字が並ぶ。赤字路線のJR吉都線を盛り上げようと、3年の生徒5人が乗車客をもてなすために作った。生徒らは3月、同線に乗り込み、沿線の魅力を伝える観光ガイドも務めた。

同校では学科やコースにかかわらず、1年時には地域で活躍する人を知る「えびの学」を実施。2、3年時は地元企業などと連携し、地域課題解決に向けた取り組みを行う。これまでにえびの市の史跡を巡るサイクリングコ

ースを考えたり、ご当地グルメのレシピを開発したり。飢餓に苦しむイエメンの子どもたちを支援しようと、同国産のコーヒー豆販売を企画するなど、枚挙にいとまがない。一人で複数の事業を担うことも多いという。

定員割れが続く中、魅力度を向上させようと、2014年度から始めた取り組み。生徒のコミュニケーション能力や課題解決力などが磨かれ、県内外の成果発表大会で数多く入賞するように。全国的にも注目を集め、全国から入学者を募る「全国枠」や、2年時だけ他

校に通う「地域みらい留学365」制度を活用して20年度以降、計20人が県外から同校へ入学・留学した。

山口県出身の普通科3年河村聖也(せいや)さん(17)は「地域の課題解決がやりたくて入学した。子育て面から地域を活性化させ人口を増やせたら」。神奈川県出身の同科1年の岡田雅姫(みやび)さん(15)は「グローバルとローカルな視点で地域を盛り上げたい」と意気込む。(竹村麻実、写真・猪八重俊樹)

若者 WAVE

情報募集しています

「高校いいね! #拡散希望」

学校の自慢を紹介します。各校の人気者やはやっ